

開講科目名 / Course	地域看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	川南 公代	
担当教員名 / Instructor	佐藤 愛、小野 治子、藤本 優子、川南 公代、妻木 美香	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭におき、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場での暮らしを支える看護の基礎を学ぶことを目的とする。看護の対象となる人や家族が暮らす拠点として「地域」を理解し、様々な場所で様々な健康状態にある人々のその人らしい暮らしを支える看護の役割・機能について学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護の概念や特徴、変遷と今日の課題について説明できる。</li> <li>2. 予防の概念および健康の保持増進と疾病予防における看護の役割について説明できる。</li> <li>3. 看護の対象が暮らす地域の特性と人々の生活について関連づけることができる。</li> <li>4. 地域において看護職に求められる役割や機能について説明できる。</li> </ol>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、6.探求心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 地域看護学の概念と機能</li> <li>02. 公衆衛生の意義と考え方（プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション）</li> <li>03. 公衆衛生の現状と展開（健康の社会的決定要因と健康格差への取り組み）</li> <li>04. 地域看護学の歴史とこれからの展望、諸外国の地域看護と日本の現状</li> <li>05. 地域看護活動：地域看護活動の対象</li> <li>06. 地域看護活動：地域看護活動の場</li> <li>07. 地域看護活動：地域包括ケアシステム</li> <li>08. 地域看護の活動事例</li> </ol>	
その他の授業の工夫	学生が主体的に考え、発言できる力を養うために、グループワークや意見交換等のアクティブラーニングを実施する。さらに当該授業の終わりには、学びを振り返ることで、自分の考えをまとめたリ深めたりすることを目的にミニレポートを課す。	
時間外学修	<p>事前学修：授業計画に基づきテキストや副読本で事前学習を行う（15h）。</p> <p>事後学修：講義後は示された資料や関連分野の文献・書籍で復習を行う（7h）。</p>	
評価方法と評価割合	<p>定期試験：70%、平常点：10%（発表等の積極性、グループワークにおける貢献度）、各種提出物：20%。</p> <p>定期試験を1回実施する。なお、定期試験の受験資格は、出席が6回以上であること。提出物には、ミニレポートを含み、ミニレポートの内容も評価に含まれる。</p>	
テキスト	公衆衛生看護学.jp 第5版（インターメディカル）	
参考書		
履修する上で必要な要件	本科目は地域看護学実習の履修にあたり前提要件となる。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	川南公代：行政の保健師 小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭 藤本優子：行政の保健師 佐藤愛：病院の保健師 妻木美香：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	県保健福祉部の医師、保健師
実務経験をいかした教育内容	担当教員が実践してきた豊富な保健活動をもとに、学生がイメージしやすいよう具体例を示し学生の興味を引くように工夫する。また、保健所長の経験のある医師が講義を行う。	